

日本数学会 会 報 141

2011年5月

1. 2011年度秋季総合分科会について

2011年度秋季総合分科会は信州大学において、下記の通り行われます。

場 所： 信州大学理学部

日 時： 2011年9月28日（水）より10月1日（土）まで
（市民講演会は10月1日（土））

開催情報のページ：<http://mathsoc.jp/meeting/shinshu11sept/>

2010年度秋季総合分科会から、オンライン講演申込・アブストラクト投稿システムの運用を始めました。これは、プログラム編成に関する開催校の事務負担の軽減を主な目的としております。今回からは原則としてオンラインシステムによる講演申込に限ることいたします。会員の皆様にはこのことをご理解いただきますようお願いいたします。

以下では、オンラインシステムを用いた講演申込とアブストラクト投稿の大枠について説明して、その詳細につきまして「3. オンライン講演申込・アブストラクト投稿システムについて」で解説いたします。

2011年度年会の一般講演のアブストラクトについては、今回の秋季総合分科会および2012年度年会で口頭発表できます。このことに関する詳しい説明は、次項「2. 2011年度年会の一般講演の口頭発表について」でいたします。

a) 講演申込について

この会で講演することを希望される会員は、原則としてオンラインシステムを用いてお申し込み下さい。何らかの事情でオンラインシステムを利用できない会員に対して講演の機会を保障する手段も考えております。「6. オンラインシステムを使えない会員の講演申込・アブストラクト投稿について」をご覧ください。

共同発表者を含めて、会員である発表者の会員番号を必ずご記入下さい。（会員番号を用いて、発表者名と所属の略称が自動入力できます。また、一般講演の発表者と講演題目をデータベース化するときに、会員番号をキーとして用います。）

「無限可積分系」セッションについても、講演の発表、募集は分科会と同じように公募形式を取り、アブストラクト集の作成、特別講演も分科会と同様に行われます。講演希望の方は、オンラインシステムの「希望分科」欄を「XI 無限可積分系」として下さい。

書画カメラまたはプロジェクタの使用を希望される方は、オンラインシステムで希望のものを申告して下さい（「4. プレゼンテーション設備について」を必ず参照して下さい）。

なお、大会運営上時間及び講演件数を制限させて頂くこともあります。

予稿（アブストラクト）原稿も、下記の注意に従ってオンラインシステムを用いてご提出下さい。

オンラインシステム（APP サーバー）の URL: <https://app.mathsoc.jp/>

オンラインシステムによる申込締切：6月26日（日）23時59分

（オンラインシステムの受付開始は6月3日（金）00時00分とします。）

申込件数の制限：応用数学分科会では、申込件数を1人当たり2件以内とします。

予稿原稿：分科会による指定のない限り、2009年度版会員名簿内の“学会アブストラク

トの書式”に従って作成して下さい。(開催情報のページから“学会アブストラクトの書式”がリンクされています。そこにはアブストラクト作成のための LaTeX クラスファイルのページもリンクしてあります。)

過去2回のオンラインでのアブストラクト投稿で、カラーの画像を含んだ PDF ファイルが散見されます。アブストラクトの印刷自体は白黒ですので、それがどのようになるかは印刷所の状態によります。オンライン講演申し込み・予稿投稿 WG では画像の白黒化はしない形で分科会評議員と特別セッション責任者に PDF を渡すことにします。また、今後アブストラクトを会員内で公開する場合も、カラーの画像のままとします。以上のことをご理解の上で、カラーの画像を PDF に含めるようにして下さい。

また予稿原稿の送付期限も、講演申込と同じく、

6月26日(日) 23時59分

とします(統計数学分科会と応用数学分科会での講演に関しては、別途説明があります)。キーワード・分類コード：数学基礎論および歴史、函数論、実函数論、統計数学、応用数学各分科会への講演申込にあたっては、オンラインシステム上でそれぞれ次の分類コードから選択します。この場合、オンラインシステムではキーワード・分類コードの選択がないとエラーとなりますのでご注意ください。また、今回から上の分科会以外ではキーワードの記入ができないようになっていきます。

数学基礎論および歴史分科会：1 [数学基礎論]，2 [歴史]

函数論分科会：1 [1変数函数論]，2 [多変数函数論]

実函数論分科会：1 [フーリエ解析]，2 [関数空間]，3 [発展方程式]，
4 [バナッハ空間の幾何，不動点定理]，
5 [測度論，積分論]，6 [その他]

統計数学分科会：1 [確率論，確率過程論]，2 [計画数学]，
3 [確率分布，標本分布，乱数]，4 [実験計画法]，
5 [多変量解析]，6 [時系列解析]，
7 [ノンパラメトリック解析]，8 [漸近理論]，9 [応用統計]，
10 [推測理論] (3-7に含まれないもの)，11 [その他]

応用数学分科会：1 [解析系応用数学]，2 [離散系応用数学]，3 [その他]

上の分類コードは、講演申込数の動向などに応じて改訂を検討することになっておりますので、ご意見を連絡責任評議員までお寄せ下さい。

講演題目中の数式：すでに数学通信14巻4号の会報でお願いいたしましたが、講演題目に用いる数式は最小限に留めるようお願いいたします。

b) 学会講演申込書・学会プログラムの名誉教授の扱いについて

2007年度版会員名簿「学会講演申込書を書くときの注意」の中に「名誉教授は空欄にして下さい。」と記載してありましたが、2008年3月28日の理事会にて「学会講演申込書には名誉教授であることをご明記いただき、学会プログラムでは名誉教授を表すマークを付けて所属欄に記載する」と決定しました。オンライン申込で名誉教授に関するボタンも用意されておりますので、名誉教授の先生方はお忘れないようにお願いします。

c) 予稿集について

各分科会、セッションとも予稿原稿に従って講演予稿(アブストラクト)集を作ります。

(1) 基礎論及び歴史・代数・幾何・函数論・函数方程式論・実函数論・函数解析・トポロジー分科会・「無限可積分系」セッション

上述の「a) 講演申込について」の“予稿原稿”に従ってご提出下さい。

(2) 統計数学分科会

統計数学分科会では、講演申し込みと予稿投稿の方法は2011年度年会よりオンラインシステムに統一されております。統計数学分科会では予稿集の原稿の締め切りは講演申し込みの締め切りと同時ではなく、**2011年7月24日(日) 23時59分**といたします。この締め切りまでにオンラインシステムにより原稿のPDFファイルをアップロードして下さい。なお、ご事情によりオンラインシステムによらず講演申し込みをされる場合、予稿集の原稿の締め切りは他の分科会と同じといたしますので、ご注意下さい。詳しくは「6. オンラインシステムを使えない会員の講演申込み・アブストラクト投稿について」をご覧ください。

(3) 応用数学分科会

応用数学分科会(別記のように申込件数は2件までに制限)では原則オンライン投稿とし、予稿集用の原稿投稿締切を講演申込締切と同時ではなく、~~2011年6月26日(日) 23時59分~~**2011年7月24日(日) 23時59分**とします。何らかの事情でオンラインシステムを利用できない方は、「6. オンラインシステムを使えない会員の講演申込・アブストラクト投稿について」に従って行って下さい。予稿原稿は1講演あたりA4(縦置)横書き4ページ以内とします。マージンは上端20mm, 下端30mm, 左右端30mmとして下さい。講演予稿集は原稿をそのままB5に縮小して白黒で印刷しますからフォントサイズは9ポイント以上として下さい。ページ番号は入れないで下さい。ファイルはPDF形式に限定します。PDF形式に変換する際はすべてのフォントをインクルードして下さい。また、PDF形式に変換後のファイルをAcrobat Readerなどで印刷し、読めることを確認して下さい。予稿集の目次は、講演申込時の題目で組みますのでご注意ください。なお、特別講演やスペシャルセッションについては4ページの制限は適用されません。詳細については評議員に問い合わせして下さい。応用数学分科会では液晶プロジェクターの利用は原則的に可能としていますので、利用を希望する場合はオンライン講演申込において発表方法として「プロジェクターを使用する」を選択して下さい。もし、やむを得ない理由で利用が不可能になった時は応用数学分科会ニュース：<http://polaris.s.kanazawa-u.ac.jp/dam/news.html> にその旨掲載しますので適宜確認して下さい。応用数学分科会ニュースは応用数学分科会公式ウェブページ

<http://isam.pm.tokushima-u.ac.jp/~imai/societywork/dam/damtop.htm>からもリンクされています。

d) 講演申込の確認について

前回の2011年度年会のときと同様に、プログラム編成会議終了後に、講演者名と講演題目を確認のためにウェブ上で公開して確認します。7月11日(月)に情報を秋季総合分科会の開催情報のページにおいて公開します。(公開開始のニュースを数学会の会員向けのニュース欄においてお知らせします。)確認した結果、何かお気づきの会員は、7月14日(木)までに program@mathsoc.jp までご連絡下さい。そのときに、いつの時点で講演申込をしたか、なるべく詳細にご連絡下さい。

軽微な字句修正につきましてはお断りする場合もあることを予めご承知下さい。また、アブストラクトのPDFの差し替えはいかなる理由があってもお引き受けいたしません。

e) 会合の申込について

各分科会または研究団体で、会合のために部屋の準備を必要とされる場合は、今回からオンラインシステムで申請をしていただくようお願いいたします。①会合の名称, ②責任者の氏名・連絡先(電子メールアドレス, なければファックス番号または電話番号), ③使用の

日時・人数，④弁当の有無等，⑤プログラムへの掲載希望を，オンラインシステム上の様式に従って記入して下さい。

分科会の会場を使つての会合に関しても，分科会のプログラムや全体の委員会等日程への掲載の必要がある場合は，必ずこのシステムを通して登録をお願いします。また，お弁当の数の開催校への連絡も，登録のあった会合申込のページを通して申込期限後に行っていただきます。以上の詳細については，秋季総合分科会の開催情報のページからリンクをしてありますので，参照してください。

なお，期限後の申込については，会場確保が不可能となる場合もあります。

オンラインシステム上での会合申込：<https://app.mathsoc.jp/shinshu01septcomm/>

申込期間：6月3日（金）00：00から6月24日（日）23：59まで

f) 無限可積分系

このセッションについては，日本数学会理事会の責任において行うものですが，今回の実務的な責任者は白石潤一氏（東京大学大学院数理科学研究科）です。

g) 企画特別講演について

企画特別講演は，1996年度第3回評議員会において承認され，1997年度年会より始まった企画で，大学院生等若い会員にとって，年会・総合分科会への参加がより意義のあるものになることを目的としています。講演者は，分科会評議員および「無限可積分系」セッション責任者からの推薦をもとに，理事会が決定致します。講演は，学会期日中の第1日，第3日，第4日の3日間の13：00～14：00に複数を平行して開催します。この時間は一般講演・特別講演等の通常プログラムは設けません。また，アブストラクトは総合講演アブストラクトと合わせて作成します。

h) 書籍等展示の申し込みについて（この部分は事務局）

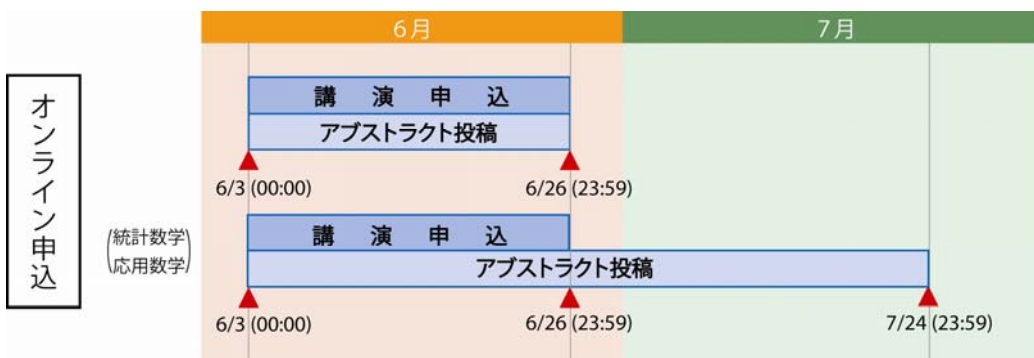
賛助会員で書籍等の展示を希望される場合は，申込書2枚（日本数学会理事長宛，大会委員長宛）を申込締切7月1日（金）厳守で下記（展示とりまとめ当番社）へお送り下さい。（締切後の追加申し込みはご容赦下さい。）

送り先：〒113-0034 文京区湯島4-1-22

（株）マテマティカ

電話:03-3816-3724 FAX:03-3816-3717

スケジュール 下の図において統計数学・応用数学を除くすべての分科会・セッションの申込スケジュールは，上段の流れ（分科会名が記載されていないもの）が該当します。



電子メールアドレス 大会の準備のためにいくつかの電子メールアドレスを 사용합니다. 以下のリストのアドレスには@mathsoc.jp を付け加えて下さい.

講演題目の確認のためなど	program
入会希望者の仮 ID の申込	member
オンラインシステムに関する質問	inquiry.mgate
オンラインシステムが使えない会員のためのサポート	app-support
理事長	president
オンラインシステムの担当理事 (戸瀬信之)	tose

2. 2011年度年会の一般講演の口頭発表について

2011年度の年会の開催を中止したとき、3月20日に開催いたしました理事会において同日アブストラクト集が発行されたことによって予定されていた講演が成立したことを確認しました. このことをウェブ上の告知文

「2011年度年会で予定されていた講演の取り扱いについて」

<http://mathsoc.jp/meeting/waseda11mar/record2011.html>

で案内いたしました. その中で、2011年度年会で予定されていた一般講演のアブストラクトについて2011年度秋季総合分科会または2012年度年会で口頭発表することも可としました. 学術的に公正な大会運営のために、この口頭発表に関して以下の特別な取り扱いをいたします.

- ▲ 講演題目, 全講演者とその順序, アブストラクトの変更は認めません. ただし, 口頭発表者と講演者の所属, 使用するプレゼンテーション機器は変更を認めます.
- ▲ この取り扱いのために, オンライン講演申込・予稿投稿システムをカスタマイズします. 具体的には, 2011年度年会における講演申込者がシステムにログインした時点で, 申し込んだ講演のリストが表示されて, そこで口頭発表の申込を行うことにします. 認められている変更をするときは, 通常通り講演申込内容の変更で行います.
- ▲ ここでの「講演申込者」は実際にオンラインシステムを用いて講演を申し込んだ会員および入会希望者を意味します. このことで不都合が生じる極めて稀なケースがあり得ると思いますが, その場合は inquiry.mgate@mathsoc.jp までご連絡下さい. また, 入会希望者として年会で講演を申し込んでいて, 4月23日(土)の時点で未入会の方には, 担当理事からこの件で電子メールをお送りしています.
- ▲ このオンラインシステムのカスタマイズにつきましては, 講演申込の開始までに詳細の情報を開催情報のページで公開します.
- ▲ アブストラクトは, 2011年度年会で投稿されたアブストラクトの PDF を用いますが, 第1ページの上部に「2011年度年会」とそのときの講演番号をヘッダーとしてオンラインシステム上自動的に加えることにします.

アブストラクトの講演内容を変更される場合などは, 新規の講演として申込して下さいますようお願いいたします.

3. オンライン講演申込・アブストラクト投稿システムについて

アクセス先:

すべての手続きは APP サーバー URL

<https://app.mathsoc.jp/>

にアクセスして行います。そこから、必要な情報はすべてリンクされています。

基本的な流れ：

講演申込の基本的な流れは

アカウント作成 (Activation) → 講演申込 → アブストラクト投稿
の3段階になっています。すでに Activation を済ませている場合は、講演申込から始めます。

マニュアル：

APP サーバーのトップページには、「*マニュアルなどの情報」の項目があり、そこにアクセスすると、より詳しいマニュアルや補足説明を入手できます。ウェブ上のマニュアルは最新のシステムにほぼ準拠したものになっております。アカウント作成に関する説明は「数学通信」15巻3号の「6. 会員証とオンラインシステムにおけるアカウント」とオンライン上のマニュアルにおいて詳しく説明してあります。

アカウントの作成 (Activation)：

上でも説明しましたが、前回の2011年度年会から講演申込・アブストラクト投稿を含むオンラインシステムのアカウントを作成しています。このアカウントは、会員番号と Activation Key を用いて、ID とパスワードを設定することで作成します。アカウントの ID は日常よく使う電子メールアドレスとします。電子メールアドレスには、パスワード設定、講演申込の(仮)受付の通知、アブストラクト受領の通知などが送られてきます。この部分の詳しい説明は、「数学通信」15巻3号の「6. 会員証とオンラインシステムにおけるアカウント」をご覧ください。また、Activation のためのマニュアルも APP サーバーのトップから迎えます。入会希望者には、講演申込・アブストラクト投稿のモジュールに限定したアカウントを Activation Key を用いない方法で与えますので、「5. 年会、総合分科会における一般講演について」をご覧ください。

講演申込：

この手続きは、従来の講演申込用紙をオンラインで作成することにあたります。アカウントを作成した後に、設定した ID とパスワードを用いて APP サーバ

<https://app.mathsoc.jp/>

のメニューから「講演申込・アブストラクト投稿システム」にログインしてこの手続きを始めて下さい。統計数学分科会と応用数学分科会での一般講演についても、この手続きを6月26日(日)23時59分までに済ませて下さい。

今回は2011年度年会のアブストラクトの口頭発表を受け付けるために、「講演申込・アブストラクト投稿システム」にログインした段階で前回申し込んだ講演のリストが最初に表示されます。

アブストラクト投稿：

次の段階に進んでアブストラクトの PDF ファイルをアップロードします。分科会によって制限されたページ数のチェックも行います。統計数学分科会および応用数学分科会での一般講演については、アブストラクト PDF を7月24日(日)23時59分までアップロードして下さい。その他の分科会・セッションでの一般講演については、講演申込およびそれに続くアブストラクト投稿を6月26日(日)23時59分までに済ませて下さい。

重要な注意：

実際に登壇して発表することを口頭発表と呼びます。自分のすべての口頭発表について会員番号を入力して下さい（共同発表者が講演申込をする場合にも、口頭発表者の会員番号を入力して下さい）。プログラム編成のときは、口頭発表者の会員番号をキーとして、データの整理を行います。

講演題目の数式・異体字：

講演題目の数式は **TEX** で記述します。その制限事項などについては、マニュアルに記述してあります。また、講演者名や講演題目に異体字を使うことができます。上で説明した **APP** サーバー上のメニュー「*マニュアルなどの情報」からその説明がたどれます。

問い合わせ先： オンラインシステムに関する問い合わせは
inquiry.mgate@mathsoc.jp
までお願いします。

4. プレゼンテーション設備について

すべての会場でプロジェクターと書画カメラが利用できる予定ですが、場合によっては一部の会場で書画カメラの代わりに **OHP** の利用となるかもしれません。書画カメラに関する情報はプログラムが確定した後、7月末頃に開催情報のページ

<http://mathsoc.jp/meeting/shinshu11sept/>
に掲載いたします。

(秋季総合分科会実行委員長 花木章秀)

5. 年会、総合分科会における一般講演について

年会、秋季総合分科会において一般講演ができるのは日本数学会会員に限ります（昭和57年度の理事会で確認）。オンラインシステムでは講演を申し込むとき、口頭発表者が会員でないとシステムが講演を受付ません。

以下は、日本数学会に入会予定の方で講演を希望される方への注意です。

2011年度秋季総合分科会で入会希望者が講演申込をするには、2011年度後期からの入会を条件とします。

日本数学会に入会予定の方も、オンラインシステムを用いて講演申込およびアブストラクト投稿をしていただきます。そのためにオンラインシステムの仮のアカウントが利用できますので、表題 (subject) を「仮のアカウント希望」として、以下の文面を完成させて事務局のアドレス member@mathsoc.jp までお送り下さい。もし何らかの事情でオンラインシステムをご使用になれない場合は、会員に対する例外措置を適用しますので、このアドレスでご相談下さい。

仮のアカウントの申請は6月2日（木）以降、6月23日（木）15時まで受け付けます。なお、6月12日（日）に開催の理事会に間に合うように入会申込をされる場合は、6月13日（月）に入会受理の書類と会員用の **Activation Key** を発送しますので、仮のアカウントの申請は必要ありません。

オンラインシステム利用のための仮のアカウントを希望
氏：
名：
氏ふりがな：
名ふりがな：
所属：
住所：
住所郵便番号：
電子メールアドレス：

以上

ここでの電子メールアドレスは、アカウントの ID として用いることにご注意下さい。この文面中の電子メールアドレスに、パスワード設定を促す電子メールをお送りします。この手順に関する詳しいマニュアルを PDF で用意しています。

まだ入会していないが講演を希望している方をご存じの会員は、その方に上記のことをお知らせ下さい。また入会に関する情報のページ

「会員へのお誘い」 <http://mathsoc.jp/pamph/current/member.html>
が用意してあります。

6. オンラインシステムを使えない会員の講演申込・アブストラクト投稿について

「1. 2011年度秋季総合分科会について」においても説明しましたが、今回からすべての一般講演の講演申込・予稿投稿には、原則としてオンラインシステムを用いることとします。しかし、年会および秋季総合分科会における一般講演の機会には日本数学会において最も尊重すべきことだと思います。そのために、何らかの事情でオンラインシステムをお使いになれない会員のために、以下のサポートを行うことにいたします。ここにある期限は統計数学分科会、応用数学分科会を含むすべての分科会に適用されますので、ご注意ください。

2011年度年会で投稿したアブストラクトについて口頭発表を申し込む場合は、以下の(1)のケースに従って講演申込書のみを事務局にお送り下さい。そのとき、講演申込書の備考欄に2011年度年会の講演であることを明記して下さい。

また、この項より詳しい説明を加えた文書も開催情報のページに用意してあります。必要な方は、事務局に電話で連絡していただければすぐに発送いたします。

(1) 電子メールをお使いにならない会員の場合

講演申込用紙とアブストラクトを事務局までお送り下さい。講演申込書とアブストラクトは**6月17日(金)必着**とします。

送付先：〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8
日本数学会事務局

(封筒の表面に“年会アブストラクト在中”と朱書きのこと)

講演申込書は2009年度会員名簿に綴じ込まれているものをお使いください。開催情報のページには PDF 形式のファイルも用意してありますし、事務局にご連絡くだされば、すぐに郵送いたします。

(2) 電子メールは使えるが、オンラインシステムは使えない場合

電子メールで講演申込書の内容を app-support@mathsoc.jp までお送り下さい。また、ア

ブストラクトを（１）の送付先にお送り下さい。講演申込とアブストラクトは**6月17日（金）必着**とします。この場合、電子メールを受け取った直後に、アブストラクトについて、手書きであるか、TEX を使って作製しているかなどを照会させていただき、可能ならばTEX ソースをお送りいただくことも考えます。

（３）オンラインシステムは使えるが、アブストラクト PDF の作り方が分からない場合
オンラインシステムで講演申込を6月17日（金）までに行い、すぐに（２）のメールアドレスにメールを送り、アブストラクト PDF をお作りになれない事情をご説明下さい。可能ならば適切なサポートを行いたいと思います。この場合も、**6月17日（金）必着**を目処にアブストラクトの準備をお願いすることになります。

一般講演のアブストラクトは、分科会の決定に従って、会員内に公開されることがあります。この公開・非公開は講演申込者が設定することになりますが、上記の（３）の場合を除き、この公開を行えなくなります。公開・非公開の設定を行うためには、オンラインシステムにログインして確認メールのやりとりを伴う操作が必要だからです。

7. 学会講演でのOHPの原稿について

最近数学会の年会や秋季総合分科会の講演でのOHPの使用が多くなってきました。限られた時間ですから、有効に使うと良い発表ができます。

一方、得られた成果を全部発表しようとする余り、時間に比べてあまりにたくさんの講演用シートを準備し、その結果次から次へとシートが変わって、聴衆は何もわからない、という逆の効果が生じている講演も少なくありません。また、1枚のシートに小さい字で一杯書いてあって、前の方でもよく見えないというケースもあります。このような不満が何人かの会員の方々から寄せられています。

人にもよりますが、講演用シートは大体3分間に1枚が目安ではないかと思われます。1ページあたりの行数は8行程度が遠くからでも見易いと思います。図表の利用など工夫を凝らしたシートを準備して、OHPを活用した講演を行うことが結局は最も印象深いのではないのでしょうか。詳細な数式は予稿集を活用するなどしてみたらいかがでしょうか。また、これも人によりますが、講演用シートは手書きの方が読みやすい、ということもあります。TeX を利用するときれいなシートができますが、100人を越える教室での発表の効果は20人程度の研究会の場合とは異なります。予稿集と講演用シートは同じではありません。

大学院生を初めとする若い会員の皆様にとっては学会講演が特に大切な発表の場でもありますので、ここにあえてお願いする次第です。

8. 2011年秋の日本数学会秋季総合分科会保育室利用のご案内

2011年秋の秋季総合分科会（信州大学）における、学会保育室の開設を予定しております。お申込みの詳細は、数学通信16巻2号（2011年8月19日発行予定）に掲載いたします。

また、同時期に日本数学会ホームページ（<http://mathsoc.jp/meeting/shinshu11sept/>）にも詳細データを掲載致します。

<お問い合わせ先>

（社）日本数学会事務局 Tel: 03-3835-3484 Fax: 03-3835-3485
メールアドレス：msj-hoiku@mathsoc.jp（日本数学会保育室専用）

9. 2011年度役員及び委員について

本年度の役員および委員は、定款ならびに細則に定められたそれぞれの手続きにしたがって次の方々に決定しました。

理事長	宮岡 洋一		
理事	小川 卓克	小谷 元子	
	齋藤 政彦	戸瀬 信之	
	平田 典子	宮岡 洋一	
	*芥川 和雄	*石川 剛郎	
	*小磯 深幸	*坪井 俊	
	*中村 玄	*真島 秀行	
	(*印は2011, 2012年度理事)		
監事	小島 定吉	松本 幸夫	
	森田 康夫		
評議員	小磯 深幸	坪井 俊	
	山本 昌宏		
[北海道]	斉木 吉隆	*古畑 仁	
[東北]	*会田 茂樹	三浦 康秀	
[関東]	加藤 晃史	*真島 秀行	
	宮本 雅彦	中村 宗敬	
	広中由美子	松山 善男	
[中部]	*鈴木 浩志	永井 節夫	
	南 範彦		
[京都]	*伊藤 哲史	玉川安騎男	
	松澤 淳一		
[阪神]	垣内 逸郎	壁谷 喜継	
	*渡部 隆夫		
[中国・四国]	梶原 毅	土屋 卓也	
	*吉野 正史		
[九州]	仙葉 隆	*高瀬 正仁	
	渡辺アツミ		
[数学基礎論]	*鹿島 亮	隈部 正博	
[代数学]	*並河 良典	平田 典子	
[幾何学]	*芥川 和雄	納谷 信	
[函数論]	中西 敏浩	*平地 健吾	
[函数方程式論]	*小川 卓克	中村 玄	
[実函数論]	*蚊戸 宣幸	曾布川拓也	
[函数解析学]	*内山 充	中桐 信一	
[統計数学]	*富澤 貞男	南 就将	
[応用数学]	*小俣 正朗	山本 野人	
[トポロジー]	上 正明	*石川 剛郎	
[編集会]	平野 載倫	宮岡 洋一	
	(*印は分科会, 支部連絡責任評議員)		

受賞候補推薦委員

隈部 正博	平田 典子
芥川 和雄	相川 弘明
小澤 徹	岡田 正巳
中桐 信一	舟木 直久
山本 野人	栗林 勝彦
	および理事

「数学通信」編集委員会

編集委員長 平田 典子

支部評議員

北海道

斉木 吉隆

東北

会田 茂樹

関東

松山 善男

中部

南 範彦

京都

玉川安騎男

阪神

垣内 逸郎

中国・四国

土屋 卓也

九州

高瀬 正仁

「数学」編集委員会

平野 載倫

(16巻1号まで)

徳永 浩雄

(16巻2号から)

事務長

張 良

10. 2011年度各種行事日程予定表

1. 年会：早稲田大学 3.20 (日) ~ 3.23 (水)
*東日本大地震の影響により中止。
2. 第1回通常総会 (於東大数理; 本年度理事, 理事長, 本年度予算案) 3.20 (日)
3. 第1回評議員会 (連絡責任評議員, 数学通信編集委員等決定) 3.20 (日)
4. 「数学通信」16巻1号 原稿締め切り日 4.20 (水)
5. 第2回評議員会 (前年度決算承認) 4.23 (土)
6. 会告 (総会通知) 発送 5.2 (月)
7. 「数学通信」16巻1号 発送 (会報141号・秋季総合分科会講演募集) 5.20 (金)
8. 第2回通常総会 (於日本数学会事務局) 5.21 (土)

9. 秋季総合分科会講演申込締切 (オンライン)
6. 26 (日)
10. 「数学通信」16巻2号 原稿締め切り日
7. 20 (水)
11. 秋季総合分科会プログラム速報発送
7. 下旬
12. 「数学通信」16巻2号 発送
(会報142号・秋季総合分科会プログラム)
8. 19 (金)
13. 第4回MSJ-SI(於九大)
9. 12(月) ~ 9. 21 (水)
14. 秋季総合分科会: 信州大学
9. 28 (水) ~ 10. 1 (土)
15. 第3回評議員会 (理事会推薦評議員候補者の諮問)
9. 28 (水)
16. 「代議員」, 「評議員」の選挙管理委員会発足
10. 1 (土)
17. 「数学通信」16巻3号 原稿締め切り日
10. 4 (火)
18. 責任評議員に次期評議員候補者の推薦依頼
10. 4 (火)
19. 「数学通信」16巻3号 発送
(会報143号・次年度年会講演募集)
11. 4 (金)
20. 次年度評議員候補推薦締切 (正会員25名以上の推薦を含む)
11. 4 (金)
21. 次年度評議員選挙の投票用紙発送
11. 18 (金)
22. 次年度評議員選挙の投票締切
12. 2 (金)
23. 次年度年会講演申込締切
12. 2 (金)
24. 全評議員に次年度評議員選挙結果報告・次年度代議員候補者推薦依頼
12. 12 (月)
25. 次年度年会プログラム速報発送
1月下旬
26. 次年度代議員候補者推薦締切 (正会員10名以上の推薦を含む)
1. 10 (火)
27. 次年度代議員選挙の投票用紙発送 (各支部ごとに行う)
1. 20 (金)
28. 「数学通信」16巻4号 原稿締め切り日
1. 20 (金)
29. 次年度代議員選挙の投票締切 (各支部ごとに行う)
2. 6 (月)
30. 「数学通信」16巻4号 (会報144号

- (代議員, 評議員名簿掲載・年会プログラム) 発送
2. 20 (月)
31. 平成25年度科研費審査委員候補者情報提供依頼締切?
2011.12.1 (土)

11. 2011年度日本数学会賞春季賞, 出版賞の授賞について

【春季賞】

日本数学会賞受賞候補者選考委員会からの選考結果報告に基づき, 春季賞は東京大学大学院数理科学研究科の志甫淳氏に授賞されました. 授賞理由は
『数論幾何学における p 進コホモロジーと p 進基本群の研究』
に関する業績です. 授賞式並びに同氏による受賞記念総合講演は2011年度秋季総合分科会 (信州大学) で行われる予定です.

【出版賞】

出版賞選考委員会からの受賞候補者選考結果報告に基づき, 出版賞はつぎの2組の方に授賞されました. 授賞式は2011年度秋季総合分科会 (信州大学) で行われる予定です.

東アジア数学史研究会編集「関流和算書大成」

授賞理由: 和算書の膨大なコレクションである「関算四伝書」は, 関流の和算家集団の研究成果を知る上では質・量ともに随一の資料群である. これを影印版として出版公開したことは和算の研究に大きく寄与するものである.

佐藤雅彦+ユーフラテス編集・執筆「日常にひそむ数理曲線 DVD-Book」

授賞理由: 放物線や双曲線, クロソイド曲線などの数理曲線を, 身近な日常生活の中に発見し, 巧みな演出で映像化した本書は, 実に見やすい上に, 数学的思考の普及に資するところ大である.

12. 2012年度年会について

標記年会は, 東京理科大学に開催をお願いしております. 期日は2012年3月

26日(月)～29日(木)の4日間の予定です。

13. 日本数学会関孝和賞候補者の推薦募集

内規に基づき、2012年度の関孝和賞推薦募集を行います。

要領は下記の通りです。

趣旨(内規第1条)：日本数学会関孝和賞は、個人または団体を対象として長年にわたり数学の研究業績以外の功績によって数学の発展に寄与し、それを通して学術文化の向上に特に顕著な貢献をした個人または団体に対しこれを授与する。

募集(内規第2条)：理事長は毎年5月に会員に関孝和賞の候補者についての推薦を求め、8月末日をもって推薦を締め切る。

候補者の推薦には日本数学会会員の10名以上の署名を必要とする。

推薦があった場合には、理事・評議員・理事長経験者から選ばれた選考委員会が組織され、その答申を受けて理事会が受賞者1名以内を決定します。(必ずしも毎年授賞するわけではありません。)受賞者がある場合、授賞式は原則として年会(翌年3月)で行われ、賞状及び副賞としてメダルと関孝和全集が授与されます。

(理事長 宮岡洋一 記)

14. 学術委員会報告

学術委員会から日本数学会季期研究所(MSJ-SI=Mathematical Society of Japan, Seasonal Institute)について報告いたします。

●2010年度MSJ-SIの報告、2011年度MSJ-SIの予告につきましては組織委員長からの報告をご覧ください。2012年度MSJ-SIにつきましては以下の予定です。

○2012年度MSJ-SI

テーマ：Schubert calculus

(シューベルト・カルキュラス)

組織委員長：成瀬 弘

(岡山大学教育学研究科)

●2013年度MSJ-SIテーマ公募について

学術委員会では2013年度(平成25年度)のMSJ-SIについてテーマ公募を行います。

締切は5月31日です。

学術委員会のウェブページ

<http://mathsoc.jp/comm/scientific/>

をご参照ください。

MSJ-SIは、以下の特徴を持ちます。

- ・数学会から200万円の助成金が提供されます。

- ・数学会事務局が事務手続きについて可能な範囲において援助を行います。(詳細については下記メールアドレスまで問い合わせください。)

- ・東アジアの数学会の協力のもとで、韓国と台湾から限られた人数の大学院生、若手研究者を、数学会が招待しています。(この部分については数学会理事会の担当となっています。)

- ・専門家向けの講演とともに、大学院生・若手研究者向け、あるいは周辺分野の研究者向けにサーベイ形式の講演を行うことを推奨しています。(これをMSJ-SIの方向とお考えください。)

数学会からのサポートについては検討中の課題もあり、それにつきましては随時、数学通信とウェブによって会員の皆さんにお知らせしたいと考えております。

公募に申請される方は、どうか締切までに、研究集会のテーマ、提案理由、主要な講演者(事前承諾不必要)を古田幹雄(furuta@ms.u-tokyo.ac.jp)までお送りください。また、上記メールアドレスへの事前の問い合わせも歓迎いたします。

(学術委員会委員長 古田幹雄 記)

15. 第4回MSJ-SIのご案内

第4回MSJ-SIを以下の要領で開催します：

偏微分方程式における非線形ダイナミクス
Nonlinear dynamics in partial differential equations

<http://mathsoc.jp/meeting/msjsi11/>
2011年9月12日(月) - 21日(水)
場所: 九州大学医学部百年記念講堂

<http://med.kyushu-u.ac.jp/100ko-do>

●同研究集会は期間を前半と後半に分け、それぞれ以下のトピックと講演者を予定しています。Plenary lecturesでは2時間、または4時間の入門的サーベイ講義を、招待講演では2つの講演を同時進行で最先端の話題を、またそれぞれの期間中には一般講演枠を企画しており、より多くの人の参加と講演の機会を設けています。さらに、テーマを絞ったミニワークショップも企画セッションとして開催します。現在 Nonlinear Diffusion, Viscosity Solution, Reaction-Diffusion Systems, Variational Problems, Dynamical Systems, Numerical Analysis, Nonlinear Wave Equations, Fluid Dynamics, Dispersive Equations などのテーマの下で企画中です。多岐にわたるサーベイ講演がありますので、専門家のみならず、本分野に興味のある方(特に学生、若手研究者)のご参加を歓迎します。

September 12-16 (First part)

Topics: Dissipative system, Variational method, Pattern formations, Dynamical system, Viscosity solution

Plenary lecturers: Nicola Fusco, Hiroshi Matano, Robert Pego

Invited speakers: Chao-Nien Chen, Alessio Figalli, Kazuhiro Ishige, Shigeaki Koike, Keith Promislow, Takao Ohta, Angela Stevens, Jun-cheng Wei

September 18-21 (Latter part)

Topics: Fluid dynamics, Dispersive system, Wave equation

Plenary lecturers: Eduard Feireisl, Grozdena Todorova

Invited speakers: Nakao Hayashi, Tatsuo Iguchi, Ryo Ikehata, Song Jiang, Kenji Nakanishi, Shinya Nishibata, Jaime E. Muñoz Rivera, Jun-ichi Segata, Taku Yanagisawa, Tong Yang

●参加には登録が必要です。ホームページ <http://mathsoc.jp/meeting/msjsi11/> より参加登録をお願いいたします。なお、登録料は2011年7月末日まで一般4,000円、学生2,000円となっていますので早めの登録をお願いいたします。

(栄伸一郎 記)

16. 第3回 MSJ-SI (2010年度) 開催報告

●第3回日本数学会季期研究所「ガロア・タイヒミュラー理論と遠アーベル幾何の展開」[The 3rd MSJ-SI “Development of Galois-Teichmüller theory and anabelian geometry”]

●日時: 2010年10月25日(月) ~ 30日(土)

●場所: 京都大学数理解析研究所

●共催: 京都大学数理解析研究所

●組織委員:

中村博昭(委員長, 岡山大理)

玉川安騎男(京大数理研)

Florian Pop (Univ. of Pennsylvania)

Leila Schneps (CNRS)

●参加者数: 総計 107 名

国内参加者数: 69 (学部生: 1, 大学院生: 17)

海外参加者数: 38 (学部生: 0, 大学院生: 4)

(仏 13, 米国 12, 韓国 3, 台湾 3, ドイツ 3, 英国 2, 伊 1, ルーマニア 1)

●講演

入門サーベイ: 1時間×6

研究講演: 50分×16

●目的と内容(抜粋):

1980年代初頭に A. Grothendieck は研究プログラムの概要として、ガロア群と代数曲線やそのモジュライ空間の数論的基本群に現れるディオファントス的な性質の緊密な相互関係を研究することを提唱した。1990年代以来のわが国の研究者による重要な研究に続き、今世紀に入ってから新しく開発された遠アーベル的な手法により基本的な予想の解決も含め多くの成果

が挙げられているが、一方で、未解決の予想や新たな問題をめぐり国際的に活発に研究されており、全貌を総括する機会が望まれていた。このような背景の中、日本が指導的存在である遠アーベル予想とグロタンディーク・タイヒミュラー理論に関する国際研究集会として、日本数学会は「第三回日本数学会季期研究所」に、当該研究課題を選んだ。日本数学会の理事会・学術委員会メンバーの後援のもと、数理解析研究所との共催の形で特別計画として準備を進め、組織委員には、組織委員長（中村）と実施機関所属会員（玉川）の2名に、海外から当該分野の揺籃期からの活躍で著名な Florian Pop 氏, Leila Schneps 氏が加わり、この分野の主要な研究者を招き、サーベイ講演・研究発表と討論を行なった。

●招待講演者：

André, Yves (CNRS)
Asada, Mamoru (Kyoto Institute of Tech.)
Brown, Francis (CNRS)
Cartier, Pierre (IHES)
Ellenberg, Jordan (Univ. of Wisconsin)
Furusho, Hidekazu (Nagoya Univ.)
Garuti, Marco Andrea (Univ. di Padova)
Harbater, David (Univ. of Pennsylvania)
Hoshi, Yuichiro (RIMS, Kyoto Univ.)
Ihara, Yasutaka (Kyoto Univ.)
Lochak, Pierre (CNRS)
Marin, Ivan (IMJ, Univ. Paris Diderot)
Matsumoto, Makoto (Univ. of Tokyo)
Mochizuki, Shinichi (RIMS, Kyoto Univ.)
Nakamura, Hiroaki (Okayama Univ.)
Pop, Florian (Univ. of Pennsylvania)
Saïdi, Mohamed (Exeter Univ.)
Schmidt, Alexander (Regensburg Univ.)
Schneps, Leila (CNRS)
Sharifi, Romyar (Univ. of Arizona)
Stix, Jakob (MATCH, Univ. Heidelberg)
Takao, Naotake (RIMS, Kyoto Univ.)
Tamagawa, Akio (RIMS, Kyoto Univ.)
Tsunogai, Hiroshi (Sophia Univ.)
Wickelgren, Kirsten (Harvard Univ.)

●プロシーディング出版計画：

第三回日本数学会季期研究所
「Development of Galois-Teichmüller

Theory and Anabelian Geometry」および数理解析研究所合宿型セミナー「Galois theoretic arithmetic geometry」の両企画を総合した報告集として ASPM の内の 1 冊として出版すべく、ASPM 委員会に企画書を提出し承認された。

●本会議の運営について（抜粋）：

日本数学会から、以下の運営の援助を得たのは大変に有り難かった。

- ・ポスターの制作、発送
- ・理事長名による招待状の発送
- ・Web ページの更新、管理
- ・問い合わせメールへの返信
- ・会期初日の理事長挨拶
- ・理事長・組織委員と韓国・台湾数学会からのゲストとの昼食会
- ・会期 2 日目～ 4 日目の運営補助（アンケート用紙、団体写真の撮影、韓国・台湾の方の観光案内、懇親会の受付と参加費徴収）
- ・参加者用のホテル（50 部屋分）の早期確保
（「第 3 回 MSJ-SI 実施報告書」より）

17. 一般講演アブストラクトの公開について

理事会およびオンライン講演申込・予稿申込システムワーキンググループでは、標記の件について議論を重ねてきました。分科会評議員とも擦り合わせを行い、2010 年度秋季総合分科会および 2011 年度年会の評議員会でも説明いたしました。その結果、以下の案に従って実施することといたします。

一般講演に関しては、分科会および特別セッションの全体の合意があるという前提のもとで、個々の講演に関して講演者が公開を希望する形とします。ここでの公開は、会員に限る公開を意味します。

なお、分科会特別講演に関しては、2010 年度秋季総合分科会から原則公開としますので、分科会連絡責任評議員に対して講演者の方の意向を調査してもらうことにします。その公開が準備できましたら、会

報および本会のウェブニュースでご案内いたします。

(1) 準備日程

各分科会に対して公開するか、公開する場合いつの大会の講演からにするか、照会を行います。その上で、システムの運用の開始を今年度の秋頃に予定しています。

(2) 講演のリスト

一般講演の講演者および講演題目のリストはデータベースを作成して、2010年度秋季総合分科会以降のものを一般公開することにします。そのリストに、会員に対して公開されているアブストラクトをリンクすることにします。

(3) 公開・非公開の仕様に関する詳細 (3月5日の理事会で確認)

- ・講演申込を行った会員が、公開・非公開をシステム上設定できるようにします。デフォルトでは、非公開とします。
- ・退会者（死亡を含む）に関しては、半年に1回の処理を経て非公開にします。
- ・講演申込者の設定について、共同発表者の異議があった場合は、公開については全員の合意の原則の下で処理を行います。
- ・郵送申込者の講演については公開はしないことにします。
- ・入会希望の講演申込者については、仮のIDを会員番号に変更するのは半年後の1回限りとする。（会員が公開・非公開設定用のインターフェースにログインした段階で一覧が出てくるが、これに出るようにすることに相当します。）

(4) PDF ファイルの仕様について

- ・許可するプロパティ
印刷、内容のコピー、アクセシビリティのための内容の抽出、ページの抽出を許可することにします。
- ・ヘッダーについて
大会名、分科会（特別セッション名）、社団法人日本数学会、講演のインデックスをヘッダーとして記載します。
- ・用紙サイズ A4 とします。

・フォントのアウトライン化はしないことにします。

(5) 強制的な非掲載について

他者の権利を侵害するものやモラルに反するものは理事会の判断により非公開とします。

(6) 機関レポジトリへの対応

著者が学会のヘッダーの入った版面のPDFを個人のホームページや機関レポジトリに搭載することを許すことにします（2011年3月の理事会で確認済）。

（情報システム運用委員会担当理事

戸瀬信之 記）

18. アクティベーションのお願いとオンラインシステム上のメールアドレスの使用について

2011年度年会の中止を会員間に周知するのにあたって、その連絡手段に大変苦労いたしました。2009年度の会員名簿の中の電子メールアドレスを用いましたが、会員名簿のアドレスをこの目的で使用したことをお詫びいたします。

考えてみれば、日本数学会では緊急時の一斉手段をもっていません。そこで、会員名簿の電子メールアドレスおよびオンラインシステム上で登録されている電子メールアドレスを、理事長が緊急と判断した場合に限り用いることとさせていただきます。

オンラインシステム上にアクティベーションしたアドレスは、会員名簿上とは異なり、必ずしも他の会員に電子メールアドレスを開示する必要はありません。是非、これを機会にアクティベーションを行っていただきますようお願いいたします。

（理事長 記）

19. 「日本数学会会員の社会貢献活動」に関する情報提供のお願い

数学および数学者が社会で果たしている役割を、日本数学会が社会に対してもっと強くアピールして欲しいという声が本会に寄せられています。そこで、皆様の数学教室の社会への活動の情報について以下をお

送りいただき、「日本数学会会員の社会貢献活動」として集約していく事業を昨年度から始めています。いただいた情報のうち可能なものは広報し、また情報を数学会員の間で共有して次の活動に生かせるようにしていきます。

お送りいただきたい情報は、以下の (A), (B) です。2011 年度からの分でお願いたします。

(A) まず、数学が社会で果たす役割や、数学の面白さなどを広めるために行われている、中学生・高校生や一般市民向けの啓蒙活動に関する情報です。数学教室の構成員等が行う、一般的な啓蒙活動とみなされる数学の講座や催し(中学・高校・自治体への出前授業、オープンキャンパス時の講演会、サイエンスカフェなど)について [講演者ご氏名とその所属・開催日時・場所・講演対象・講演タイトル・あれば URL など] を本会に是非お寄せください。既に終わったものでも、これからのものでも結構です。2010 年度に寄せられました情報が

URL

<http://mathsoc.jp/outreach/outreach2010.html>

にまとめてありますので、これを参考としてください。

(B) また、数学教室の構成員に、数学に関する業績で公的な賞を受賞された方がいらっしゃいましたら [受賞者ご氏名とその所属・賞の名前と授与機関名・受賞対象の業績名など] も本会に是非お知らせください。

(A), (B) とも、新しい情報がありましたら、その都度お送りいただければ幸いです。送付先は

msj-publicity@mathsoc.jp となっております。このアドレスは、広報委員会、「数学通信」編集委員会、情報システム運用委員会の委員長、担当理事に届くように設定されています。お送りいただく情報は、

(A), (B) ともに、3つの委員会でも共有して、数学の社会での役割を日本数学会

からアピールすることに役立ててまいります。特に、これから行う催しについては日本数学会ウェブページ、特に一般向けのページ <http://mathsoc.jp/outreach.html> に掲載することによって、広報のお手伝いをさせていただくことにもなると思います。このページをご覧になれば、お送りいただくデータの内容・形式についてご理解いただけます。(受賞関係記事のウェブページへの掲載は、当分の間は、今までの慣例に従う形で行いますのでその旨ご了承ください。)

(広報委員長 太田克弘 記)

20. ASPM 編集委員会

1. 出版企画募集

ASPM 編集委員会では、随時出版企画提案を募集しています。適当な企画をお持ちの方は、任意形式で企画書を委員長又は分野の近い編集委員宛に送付いただきたく、よろしくお願い致します。

2. レプリント版の刊行について

絶版になっている巻について、皆様のご要望の多い巻を選びレプリント版として復刊する事業を進めています。これまでに 2 巻と 10 巻を刊行しました。復刊のご要望は

ASPM 編集事務局

shomu-msj@carrot.ocn.ne.jp

宛にお寄せ下さい。なお現在絶版になっているのは 1 巻から 24 巻で、それぞれのタイトルについては上記の web ページを参照下さい。

3. ASPM 巻編集者のまとめ買いシステム

会報 136 号より続けてお知らせしていますが、2009 年 11 月開催の理事会で、巻編集者が出版時に多数購入できる、以下のシステムを導入することが決まりました。巻編集者 (= 研究集会組織委員等) に対して印刷時に「一回限り」のまとめ買い特別価格を提供する。

1. 60 冊以上 150 冊以内は一律定価 35 冊分の価格とする。

2. 50 冊以上 60 冊未満は会員価格 (6 割) とする.

3. 郵送先住所リストの提出があれば数学会が郵送を代行 (通常料金より安価) .

「一回限り」とありますが, 複数の巻編集者が同時に購入することは可能です. また, 最低購入部数はとくに設けません. 詳細は, 上記の ASPM 編集事務局までお問い合わせ下さい.

(ASPM 編集委員長 小島定吉 記)

21. 第 8 - 9 回高木レクチャーについて

高木貞治先生の名を冠した講演会「高木レクチャー」は, 世界から卓越した数学者を日本に招聘し, 専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし, 創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき, 日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています. 高木レクチャーをもとにした研究総説は, 査読を経て *Japanese Journal of Mathematics*

(JJM) に掲載されることになっています.

この趣旨に基づき「高木レクチャー」の創設が 2006 年 3 月 26 日 (日), 中央大学で開かれた日本数学会評議員会で承認され, 2006 年 11 月に第 1 回高木レクチャーが京都大学数理解析研究所で開催されて以来, これまでに 8 回の高木レクチャーが開催されました.

この数学通信では第 8 回の報告と, 第 9 回の予定をお知らせいたします.

第 8 回高木レクチャー (2010 年 11 月 23 日 (祝・火), 京都大学数理解析研究所) において, A. Connes (コレージュ・ド・フランス, IHÉS) : 「The adèle class space and the Riemann zeta function (アデール類空間とリーマン・ゼータ関数)」 「The Witt construction in characteristic one and quantization (標数 1 におけるヴィット構成と量子化)」, S. Gukov (カリフォルニア工科大学, マックスプランク数学研究所) :

「Quantization via mirror symmetry (ミラー対称性による量子化)」の講演が行われました.

当日には, 予稿のブックレットが配布され, その最終版の研究総説は査読後, JJM に掲載される予定です. 講演のビデオは東大数理 Video Archives プロジェクトチームにより撮影編集が行われ, web 上で一般公開しております (下記の高木レクチャーホームページをご覧ください) .

第 9 回高木レクチャー (予定)

日 時 : 2011 年 6 月 4 日 (土)

場 所 : 京都大学数理解析研究所

講演者 :

Simon Brendle (スタンフォード大学) :

「Evolution equations in Riemannian geometry (リーマン幾何学における発展方程式)」,

Carlos E. Kenig (シカゴ大学) :

「Critical nonlinear dispersive equations: global existence, scattering, blow-up and universal profiles (臨界非線形分散型方程式: 大域存在, 散乱理論, 解の爆発と普遍漸近形)」

組織委員 : 小野薫, 河東泰之, 小林俊行, 斎藤毅, 中島啓

主 催 : 日本数学会,
京都大学数理解析研究所

当日は, 各講義の概要をブックレットにて配布する予定です.

高木レクチャーの HP

http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/takagi_jp/

で最新情報を掲載いたします.

なお, 数学会会員は JJM の各冊子を会員割引価格 7500 円 (+税 375 円) で日本数学会事務局より購入することも可能です. (小林俊行 記)

22. 2011 年度版会員名簿についてのお知らせとお願い

本年秋に, 2011 年度版会員名簿の発行が予定されています.

2009年度版名簿記載事項に変更または誤植があり、その後に変更(訂正)通知カードをお送り頂いていない方は、2009年度版会員名簿とじこみの変更(訂正)通知カードでお知らせ下さい。

[提出締切日] 6月30日(火)

変更があってもお知らせがない場合は、古いデータのまま印刷されますのでご注意ください。以上、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

23. 雑誌‘数学’及び欧文誌‘ジャーナル’のバックナンバーについて

雑誌‘数学’及び欧文誌‘ジャーナル’の57巻の在庫処分に引き続き、このたび58巻の在庫処分を行うことにいたしました。

(1)58巻1号から58巻4号(2006年10月発行)までの雑誌を対象とします。

(2)バックナンバー御希望の方は、**必ず葉書で**、‘数学’‘ジャーナル’の区別を明記の上、m巻n号と、希望される雑誌の番号を明記してお申し込み下さい。電話による申し込みはご遠慮下さい。なお、この件に関する問合せも書面にてお願いいたします。

(3)事務局から郵送する雑誌の宛先を明記して下さい。

(4)お申し込みのあった雑誌は、在庫のあるものについては先着順にお送りいたします。

(5)1冊あたりの価格は‘数学’は一律500円、‘ジャーナル’は一律1,000円といたします。また郵送料は実費を負担していただきます。雑誌発送時に振込用紙を同封いたします。

(6)申し込みの締切日は、**2011年10月30日(金)**といたします。

(7)2011年11月1日以降に、残部は全て廃棄いたします。

24. 新入会員及び退会者について

2011年4月1日入会者及び2010年10月1日から、2011年3月31日までの退会者は下記の通りです。

[新入会員] 64名

山中聡恵(阪府大理)、高山勇人(東京理大理)、若原龍彦(岐阜大工)、岡崎建太(京大数理研)、江口徹(京大基礎物理学)、反田美香(近畿大総合理工)、加藤麻美子(東京電機大理工)、知念権太郎(東京電機大理工)、寺本敬(千歳科学技術大)、坂田繁洋(首都大東京理工)、塚田智彦(飯田高)、中村信裕(東大数理)、藤博之(名大理)、加藤敢(早大理工)、董惟燁(早大理工)、濱田健太(早大理工)、藤田真依(阪大理)、前野俊昭(京大工)、若杉勇太(阪大理)、金ヒョギョン(筑波大数学)、櫻井みぎ和(東京女大理)、小林政志郎(阪大理)、千葉隆宏(名大多元数理)、坊向伸隆(阪市大数研)、白石大典(京大数理研)、高橋萌子(千葉大理)、村山太郎(金沢大自然)、岩田友紀子(北大電子科学研)、渡邊隆子(お茶の水女大人間文化)、中村順(早大基幹理工)、増村一穂(東京理大理工)、三柴善範(九大数理)、井上貴博(東京理大理工)、武内祥雄(東京電機大理工)、入江慶(京大理)、綾野孝則(阪大理)、吉永崇志(立命館大理工)、渋川元樹(京大理)、Farahat Mohamed、山田翔平(阪大理)、岸本洋央(茨城大工)、久保奨(総務省)、木村健志(新潟工科大)、大前裕佳(阪大理)、巴山竜来(National Taiwan University(国立台湾大学))、早野健太(阪大理)、富澤佑季乃(中大理工)、栗原大武(東北大理)、三宅健(慶大理工)、ブリュンヤン(九大数理)、長尾雄行(産業技術大学院大)、小林一善(長野日大高)、渡辺有佑(阪大基礎工)、町田拓也(明大先端数理)、上田陽平(慶大理工)、松本真聡((株)デソ)、久保田直樹(日大理工)、杉山裕介(東京理大理)、新里智行(阪大理)、Aye Aye Win(金沢大自然)、西納武男(東北大理)、田中紀子(愛知県立岡崎高)、加勢順子(金沢大自然)、岡崎真也(阪市大理)

[退会者] 91名

伊藤順一、飯野理一、久保田陽人、大口邦雄、宋甲憲、発田卓士、松浦省三、田中茂、森俊夫、高木亮一、武藤久憲、小松博、高須清澄、

武元英夫, 渡辺金治, 清野昭一, 井森正敏, 広畑哲也, 半場哲, 仲根健, 土井幸雄, 柳井久江, 大竹政光, 二宮春樹, 佐藤ツグ子, 高木靖一, 大脇信一, 北田俊之, 橘貞雄, 村上温, 長田正幸, 松井清, 谷口彰男, 田中秀松, 松岡史和, 碓野敏博, 蔵野正美, 元田康夫, 前田正男, 瀬山士郎, 上原正宏, 浅野史行, 加藤寛, 溝上武実, 岡本和雄, 齋藤瞭, 保科隆雄, 丹羽雅彦, 吉田克明, 洲之内長一郎, 牟田正憲, 小柳良平, 水野正一, 石田滋, 椿美智子, 堀江邦明, 吉武弘明, 櫻木武, 塩崎泰年, 中畑弘次, 北川誠之助, 二之宮弘, 箕和則, 松永奈美, 前川和俊, 森山哲裕, Hupperich Marcel, Radics, Norbert, 安保勇希, 黒崎麻衣, 黒木和憲, 前山裕亮, 木村了, 金敬善, 辻井健修, Park Dae-Kwang, Gibson Andrew, 村田駿祐, 平山聖治

なお, 上記の方々他に次の方々をご逝去により退会されました。

謹んで哀悼の意を表し, ご冥福をお祈り申し上げます。

矢野茂樹, 加藤定雄, 林光利, 田中昇, 高橋恒郎, 伊藤隆司, 香城日出麿, 三塚正臣, 齋藤裕

また, 東京工業大学名誉教授菅野恒雄先生が東日本大震災により亡くなられました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

(理事長 記)

25. 会費払い込みのお願い

日頃は会費の払い込みにご協力いただきまして, ありがとうございます。

この度も, 下記の通り宜しくお願い致します。

記

- * 前期会費を未払いの方は, 6月末日までにお払い込み下さい。後期会費も合わせてご送金頂ければ幸いです。
- * 昨年度の会費を未払いの方は, 至急お払い込み下さい。
- ◆ ご送金には, 会員名簿とじこみの会費払込票をご使用ください。
また, 郵便局備え付けの振込用紙を

ご使用の際には, 振替口座

00150-1-179048

社団法人 日本数学会 を記入し, さらに必ず会員番号のご記入をお願いします。

- ◆ 学割扱いをご希望の方は, 送金毎に, 必ず, 在学証明書をお送りください。ご送付頂けない場合は学割が適用されませんので, ご注意下さい。
- ◆ 高齢会費をご希望の方は会員番号・氏名・生年月日をご記入の上, 書面にてお申し出てください。最初の一度だけで結構です。

2010年度後期会費	9,000円
高齢 (70歳以上)	6,000円
学割 (70歳以上)	4,500円
2011年度前期会費	9,000円
高齢 (70歳以上)	6,000円
学割 (70歳以上)	4,500円
2011年度後期会費	9,000円
高齢 (70歳以上)	6,000円
学割 (70歳以上)	4,500円